

2025年度 西周研究会開催のご案内

島根県立大学は、「諸科学の統合」をその建学の理念として掲げています。

西周研究会は、本学の先輩方が〈諸科学“統一”の方法論の模索と確立とに力を注ぐ中で、島根県津和野町出身の西周による「統一科学論」に注目した〉ことからスタートしました。

「統一科学論」とは、当研究会において、西周の学問的特徴を表明した言葉です。

西周本人は『尚白劄記』において、「凡そ百科の学術に於ては統一の觀有る事緊要たる可し」と述べています。この言葉の前提には、「福祉は人道の極功なり」という彼自身による人間観・社会観があります。ここで彼の言う「福祉」とは、人間誰もが求めうる「康寧」（健康・安寧）と、それを努力・勉励によって実現する「富強」なる社会を意味していました。

さらに彼は続けて、「故に福祉の極功に達せんと欲すれば、先百科の学術に於て統一の觀を立て、各自に其精緻の極に臻る事より始まるなり。是学者の事業なり」と述べています。

ここには、「学者の事業」として二つの方途が示されています。

(1) 諸学を統合する「統一の觀」を立てること

(2) 各自の専門領域において「精緻を究めること」

西周は、地元津和野の藩校で学び教え、海外オランダへの留学を果たし、社会変革の時代にあって、より精緻に今古・東西の思想を統合し得た「知の巨人」です。

本学は、開学以来の「総合政策学部」の伝統を受け継ぎ、2021年度より「国際関係学部」「地域政策学部」の2学部体制となりました。

それぞれの専門性を深めつつ、研究・教育の成果を社会に還元していくためには、幅広い学問分野を総合・統合し、人間存在や社会の実相を多角的に捉える学究態度がますます重要なと考えます。

島根県立大学西周研究会では、西周の広範な思想と学識に学びつつ、また本学の先輩諸師の歩みに倣い、引き続き多様な学問の交流を促し、「諸科学の統合」を実践する場を形成していきたいと考えています。

記

開催日時：2025年11月28日（金）16:30～18:00（5限）

開催場所：島根県立大学浜田キャンパス 演習室10

猪原透氏（日本学術振興会特別研究員／立命館大学専門研究員）

「帝国」拡張の論理と人口問題——明治後期の人口論

山岡浩二氏（郷土史家／石見郷土研究懇話会副会長）

郷土史・地域文化研究の地域振興における役割と未来